

飛燕の時代

キ61「飛燕」初飛行70周年記念展



今から70年前、麗しき銀翼の燕が各務原の大空へ舞い上がった。

パネル展

期間：平成23年12月11日(日)
～ 平成24年1月9日(月・祝)
午前9時30分 ～ 午後4時00分

場所：博物館内 特設展示場

内容：

- ・三式戦闘機(キ61)
飛燕 型、型 全体図、写真
- ・ハ40エンジン 全体図、写真
- ・五式戦闘機(キ100) 全体図、写真
- ・飛燕の風洞模型写真
- ・飛燕の製造風景等 工場関係 / 生産関係資料
- ・オーストラリアで復元中の飛燕の写真
- ・キ91試作遠距離爆撃機 一般図
- ・「飛燕」記録映画の上映
- ・その他、戦時資料の展示等
(当時の資料は全て複製の展示となります)

パネル座談会

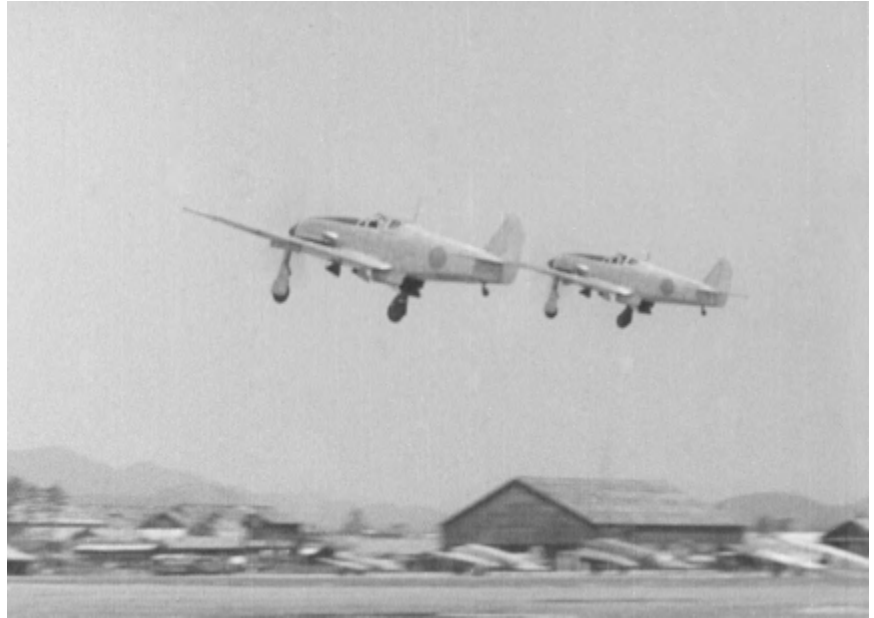
テーマ：「土井武夫さんとの思い出」
日時：平成24年1月8日(日) 13:30～
会場：博物館内

「飛燕」の設計主務者であり、戦後のYS-11機開発など、日本航空史に多大な足跡を遺された土井武夫氏を知る航空技術者の方々によるパネル座談会を開催します。(先着50名)

観覧には博物館への入館券が必要です。

協力・資料提供
所沢航空発祥記念館
各務原市歴史民俗資料館
川崎重工業株式会社
K-VART
(Kawasaki-Vintage Aircraft Restoration/Research Team)

主催 各務原市かかみがはら航空宇宙科学博物館
〒504-0924 岐阜県各務原市下切町5丁目1番地
電話：058-386-8500
ファクス：058-386-9912
e-mail: kokuuchu@city.kakamigahara.gifu.jp



1941年12月12日、川崎航空機で設計・製造されたキ61・三式戦闘機「飛燕」の一号機が、ここ各務原で初めて大空に舞い上がりました。

「飛燕」は太平洋戦争当時、日本で唯一液冷エンジンを装備した戦闘機で、日本の主力戦闘機の一部として活躍した実績と共に、空冷エンジンに較べてコンパクトな液冷エンジンに合わせたスマートな機体、設計主務者であった土井武夫氏の設計理論に基づく細長い主翼と、当時の日本機のなかでも際立ったスタイリングの良さで、現在でもファンが多い機体です。

この「飛燕」の初飛行70周年を記念し、特別展「飛燕の時代」を開催します。

「飛燕」の設計資料や製造用図面は戦後の永い年月の間に、その殆どが失われてしまいましたが、土井武夫氏（戦後、川崎重工業(株)技術顧問）は戦時中に製図された図面等を所沢航空発祥記念館に寄贈されていました。本特別展では、これらのなかから「飛燕」の全体図等を中心に現存する数少ないオリジナル資料を紹介し、「飛燕」や搭載エンジンである「八四〇」、液冷エンジンを空冷エンジンに換装して本土防空に活躍した、五式戦闘機（キ100）の姿に迫ります。

さらに、戦時中に川崎航空機で設計されていた日本最大級の航空機である、キ91試作遠距離爆撃機（全長33.35m）の巨大な図面も特別展示します。

会場へのご案内

かかみがはら航空宇宙科学博物館

■公共交通機関

名鉄各務原線「各務原市役所前駅」下車、ふれあいバス東部南部線（平日・休日）又は休日循環線（休日）にて「産業文化センター前停留所」で乗車、「航空宇宙科学博物館前停留所」下車

■自動車

東海北陸自動車道 岐阜各務原インターチェンジから約6キロメートル。無料駐車場あり。

